

# みぞくちミニ新聞

発行元  
みぞくち

購読無料  
毎月発行

## 公園掃除

### 騒いでいるのが元気の証

昨年より5日遅く、7月末にようやく梅雨が明けました。今年の梅雨も全国各地で災害をおこした。一昨年に河川の反乱を起こした真備町小田川は、今年も危ない時があった。朝から情報収集をしていると、時が経つにつれ危機感が増大した。しかし大きな災害には至らず、ほっと胸をなでおろした。よかった。

さて、梅雨明けというこ

とは夏本番。熱中症の危険が増すということだ。就労グループの公園掃除は特に注意しなければならぬ。このところ、所長も森田サビ管も公園掃除への応援が続いた。夏の日差しにエネルギーをもらった草木たちが、一斉に大きく伸びている。利用者の皆さんと一緒に、草刈りや剪定作業を黙々とこなす。いや騒々しくこなす。なぜなら暑い

から。口を開けば「暑い」いや「熱い」と騒ぎ立てる。こうやって騒いでいるうち

は、まだ体力に余裕がある証拠。黙りこくってしまったと実は要注意。そんな余裕はすでに残っていないという証。

これから暑さはしばらく続く、皆さんも黙りこくつてしまいう前に、しっかりと休養。熱中症にならないように気を付けてほしい。

は、まだ体力に余裕がある証拠。黙りこくってしまったと実は要注意。そんな余裕はすでに残っていないという証。

## マスク 変遷

コロナ禍の中、世界中でマスクが定着している。みぞくちの皆さんも多くの方がマスクを着用している。所長が子供の頃から比べると、マスクの様相もだいぶ変わった。

皆さんも覚えていらっしゃる、給食当番のマスク。今はアベノマスクと呼ばれているのである。「あつ今日給食当番じゃ！マスク忘れた！」顔にハンカチを巻き付けて当番をしたことを思い出す。所長が子供の頃に付けたのは元祖アベノマスクだったのか？！

それから使い捨ての不織布マスクが一般的になった。これは所長が働き始めて以降のように思う。この

不織布マスクこそ誰もが知っている定番マスク。使い捨てで衛生的だ。黄砂やPM2.5、インフルエンザが流行る時期には大変お世話になった。

今では不織布マスクの不織布もあり、布製マスクが広がりを見せている。ただし、アベノマスクではなく、もっと恰好良く個性に富んだものだ。

## 外観を艶やかに・朝顔

みぞくちの外観は一見して工場に見える。所長が言うのもなんだが、温かみに乏しい(屋内は温かみにあふれてますよ)。だがしかし、今は季節の花がプラン

ターで咲き、季節感や温かみを感じられる。実は、生活グループの利用者の皆さんと、定期的な花の植え替えを行っている。今は特に朝顔が綺麗に

咲いている。利用者の皆さんが来る頃にはしほみかけいてちよつと残念。一番いいところを見られるのは7時過ぎに出勤する所長だけ。とても得した気分。以前から花の定植は行っているものの、今年是一段

とにぎやかに咲いている。何故だろう、鮮やかな花たちを愛でると、ほっとした気持ち訪れる。

特に今年はコロナ禍の中、普段の生活の中にたくさんさんの「ほっ」を見つけた。

もうしばらくはこのマスクに頼る生活が続くだろう。このコロナ禍が過ぎ去った後のマスクはどんな様相になっているだろうか？

黒いマスクは暴走族をイメージするのは所長だけだろうか？当初はとも違和感があった色付き柄付きマスク。だが今はおしゃれに感じられる。お手製の布マスクもあれば、素材にこだわったマスクや機能性を謳ったマスクも販売されるようになった。その走りは、総社デニムマスクかもしれない。